

兵庫県青年洋上大学と同窓会のこれまでとこれから

—洋大同窓会設立50周年によせて—

兵庫県青年洋上大学同窓会 設立発起人 高橋守雄（兵1回）

プロローグ

よーソロ！！

面舵一杯！！

空はどこまでも澄み渡り青い、そして海の色は紺碧に輝き時々白い波が立つほかどこでも何も見えない、ただ水平線が地球の丸いことを教えてくれるように遠く見えるだけである。

その大海原を400余名の青年を乗せ、イギリス船籍の「コーラルプリンセス号」は南の島をめざす。その先には未知の国がある。

船上では若者達と肩を組みながら坂井時忠学長（第40代兵庫県知事）は、壮大なロマンと熱き思いを青年達に語っていた。

「この船上に集う君たち、ここに400名の仲間がいる。志を共にする友とのふれあいの中で友情を温め、情熱を傾け、共に研鑽し、自分を見つめ人としての生き方をさぐる。そこに限りない人生へのこのころの広がりが見られるに違いない。この旅は自己実現のための絶好の機会である。共に学ぼうではないか。」

1971年（昭和46年）

九月、兵庫県青年洋上大学の幕開けである。

400名を超える若者を一同に集め、そしてなによりも大型客船をチャーターし、約1ヶ月間、共に学び、見知らぬ海外の土地を訪ね、言葉も通じない現地の若者と語り合い交流する。そしてそこで学んだことを、地域で、あるいは職場で実践する。その形は自由でさまざまである。

坂井時忠学長は第1回兵庫県青年洋上大学の終了式でこう言った。

「私たちは、私たちのふるさとである“自然”の海を知った。人類文化に欠くことのない出来の民族交流の広場である海を実感した。今まで知らなかった若者達と共に汗を流し、手を握り合い、肩を抱き合った。人間愛は人とし

ての成長を求める仲間から生まれ、心と心のふれあい、育てつことを知った。その仲間意識をいつまでも持ち続けてほしい。いま、君たちは、霜や雪にもめげず青々と伸びる麦の芽のように、また踏まれても、踏まれてもくじけない雑草のように、すくすくとたくましく成長している。今後地域で、あるいは職場で様々な活動をしてくれることを期待している。」



記念の第1回兵庫県青年洋上大学の出航

こうして始まった「兵庫県青年洋上大学」、今の青年達に最も求められる人としての豊かなこころを持てるようになって欲しい、それがこの大学の発案者である坂井時忠知事の大きな願いであり、望みであつた。そしてこの青年洋上大学のテーマを「こころ」と決めた。



坂井学長を囲む学生達

長と育成が何よりも重要であると考えているからである。

またこの青年洋上大学が、青年達に何の結果も成果も求めない、その活動を強制せず、あくまでも彼ら自身の研鑽と自己充実、そして自主的な活動を期待するところにあるからではないだろうか。

以下、青年洋上大学の歩んできた道筋をおつてみる。

「記念すべき第1回兵庫県青年洋上大学」の出航

希望に満ちた船出だった。

1971年（昭和46年）

9月7日（火）11時45分。

神戸港第四突堤ポートターミナルビルで記念すべき開学式。揃いの帽子に揃いの制服、ネクタイに身を包んで。坂井学長、

来賓の祝辞で激励を受け、県旗授与、学生宣誓、

花束贈呈のあと、150

0人の歓声に包まれて“思索と創造の旅”が始まった。

401名の若者達と坂井時忠知事の熱き夢とロマンを乗せたイギリス船籍「コーラルプリンセス号」（1万トン）は神戸港から七色のテープと多くの見送りを受け、遙かなる国、フィリピン・マニラに向け出航した。

401粒の麦

6千海里、訪問4カ国、23日間にわたる「第1回兵庫県青年洋上大学」初の航海は大成のうちに終わった。そして閉学式で坂井学長が学生一人一人をなぞらえた「一粒の麦」はさわやかに秋風に乘つて、ふるさとへ散っていった。胸一杯に“ほんもののおみやげ”をもつて。

第1回生に「401粒の麦」という言葉を贈った以後、坂井学長は毎回、学生に「雑草のように」、「わかつたけ」、「地の塩」、「若獅子」、「えにし」、「太陽の子」、「南水北調のロマン」、「緑の若木」、「涼花」、「大洋の子」の言葉を贈られ、その年の報告書のタイトルとして使われるとともに参加学生の強い絆となっている。



学長から贈られた言葉をタイトルにした報告書



沿道を埋めた歓迎の人・人・人



熱烈歓迎の中国の少年少女

熱烈歓迎の中、全国で初めて、訪中を果たした第3回青年洋上大学

渤海の朝が明けた。午前5時、潮風に冷たく濡れたデッキに立つ

と、中国大陸はもう、すぐそこにあつた。

昨夜来、船の右舷に点々と島影と灯火を見たが、ここはすでに太沽口、海の色も黄色くにごってきた。まもなく近づいてきたランチから、税関吏や赤い襟章の解放軍が乗り込んできた。いよいよ中国！緊張と興奮が胸をよぎる。

中国へ第一步

1973年(昭和48年)9月13日、午前8時。天津新港に到着。

船がまだ岸壁に着かないうちから、カネや太鼓の鳴り物入りで華やかな衣装の中学生たちが歓迎の踊りを始めた。高さ50メートルもある2台のクレーンに下げられた中日両国人民団結友好万歳

熱烈歓迎日本兵庫県青年海洋大学訪華



超満員の天津体育館



試合を終えて両国選手で記念撮影

の長いまつ赤な垂れ幕が目に入る。3000人に及ぶ歓声と拍手の嵐。造花をかざした踊りの輪が渦をまく。踏みしめる中国の大地に、一步一步、言いしれぬ感動の瞬間であつた。ああ中国！ついに大陸に一步を印したの

である。24台のバスに分乗して一路天津市へ。市内へ近づくにつれて歓迎の人垣が出来ていた。「ニイハオ」「ニイハオ」一杯、歓声に応えた。通訳からも「これほどの歓迎ぶりは私も初めて見ました。」と驚かれた。

中国・ベトナム・タイ等、訪問した国・地域は延べ200カ所以上

1971年(昭和46年)に始まった青年洋上大学が歴訪した国・地域はフィリピン、シンガポール、香港、台湾、タイ、マレーシア、ベトナム、パオ、中国、韓国、モンゴル。主な都市はマニラ、セブ、シンガポール、香港、クアラルンプール、コタキナバル、バンコク、パオ、ホーチミン、ハノイ、キールン、ソウル、慶州、釜山、ウランバートル、中国では北京、上海、天津、広州、南京など主な都市はほとんど訪問している。平成になり「ひようご県民交流の船」との併設事業になつてからは「兵庫県青年洋上大



パラオから贈られたシャコ貝を利用した県公館屋上庭園



中国全土に激震が走った毛沢東主席の死亡に遭遇

学」は昭和46年の事業開始以来、その訪問国、訪問都市は延べ200カ所以上にも及んでいる。

使用した客船も「コーラルプリンセス号」「さんふらわー7号」「ニユーとぴあ号」「オリエントビーナス号」「ぱしふいっくビーナス号」「ふじ丸」と8000トン級から2万トン級に大型化していった。実施期間も海外コースで9日間から最長27日間と青年洋上大学開始当時は20日間以上の日数を要していたが、参加者の減少や休暇の取得困難等で平成になつてからは10日前後の日数となり、必然的に訪問は中国中心となつてきた。参加青年も開始以来10,000名以上に膨れあがり、その中で、いわゆる「洋大カップル」といわれる青年洋上大学生同士の結婚は250組に達している。

近畿青年洋上大学、ひようご県民の船、勤労青年洋上大学、青年洋上大学海外養成塾への発展

1980年(昭和55年)、記念すべき第10回目を迎えた青年洋上大学は、大きな節目の年となった。それは「近畿青年洋上大学」と「ひようご県民の船」事業のスタートの年でもあった。後継事業である「兵庫県青年洋上大学海外養成塾」は、現在コロナ禍で休止している。



平成19年使用船 ふじ丸



第1回使用船コーラルプリンセス号

兵庫県青年洋上大学 同窓会の設立



当時の坂井知事と同窓会役員との懇談

「宮野さん！私たちが経験したこの素晴らしい経験を1回だけに終わらすことなく、青年洋上大学が来年も継続されますように、青少年育成などの事後活動を県下で展開する同窓会を作ってもいいですか？」

「高橋君！それ待っていたんだ！」パーンと宮野（県青少年局洋上大学担当）は両手を合わせて、思い切りたたいた。

昭和46年の冬であった。

1971年（昭和46年）、「第1回兵庫県青年洋上大学」終了後、401名の若者は、青年洋上大学で学んだ知識やエネルギーを、それぞれの地域で青年活動や、ふれあい活動の開催、神戸祭りへの参加、あるいは外国青年との交流など積極的な活動が進められていたが、地域や小人数での活動をもっと大きな活動にしようではないか、また後に続く後輩達への良きアドバイザーとしての役割を果たせないか、もっと果たすべき事もあるのでは、などの意見が誰からともなく出ていた。

そのために、全県的な組織として同窓会を結成しようということになった。その世話人として第1回学生で参加した私は地域代表を招集し規約やその業務、など設立に向けて精力的に仲間を引っ張っていった。

翌1972年（昭和47年）5月27日、晴天の明石公園内「朝霧寮」において坂井時忠学長はじめスタッフ、学生等200余名の参加を得てここに「兵庫県青年洋上大学同窓会」が設立された。

初代同窓会会長に橋本真が選ばれた。橋本会長は力強く「われわれ401粒の麦は地域リーダーとしてどんどん成長して後に続く者たちへの良きアドバイザーとしての活動が期待されている。洋大生我々ひとりひとり小さいが、みんなの力を集合すればきっと素晴らしい事が出来るはず。ともに頑張ろう」と今後の活動と結束を約した。

青年団、ボーイスカウト、ガールスカウトに負けない青少年育成活動や外国との交流活動を県下各地や職場で展開、その実績は直ぐに認められた。昭和47年に兵庫県青少年団体連絡協議会に加盟が認められた。同窓会発足10周年には「ひょうご県民の船」企画運営に

兵庫県青年洋上大学同窓会生まれる

五月二十八日設立総会

たゆみなき自己充実への人生航路を

活動の中心はあなたです

船と人間屋

同窓会報告

同窓会設立を伝える「こころ」第1号



同窓会が建立した「こころの像」

携わり、同窓会単独で「青年洋上大学同窓会の船」を企画して多くの同窓会員と韓国へ渡った。青年洋大学のテーマ「こころの像」を県立播磨中央公園に建立、阪神淡路大震災では同窓会あげてのボランティア活動への積極的な参加など、同窓会活動は単なる親睦団体の域を超え、兵庫県の青少年団体の中核として飛躍していった。現在は大学

生から社会人と多世代にわたり会員数も1万人を有している。兵庫県の次代を担う青少年の健全な育成と国際交流を積極的に行い、21世紀の兵庫の核となっている。

洋大事後活動の集大成「沖縄友愛運動」

1972年(昭和47年)5月15日、終戦後27年、沖縄に本当の戦後がやってきた。アメリカに統治されてきた沖縄がやっと日本に返還されたのだ。沖縄の本土復帰を目前にした昭和47年1月15日の成人の日つどいに“沖縄に青少年施設を贈ろう”と同窓会員を中心に兵庫県の若人達が提唱して始められた、兵庫・沖

縄友愛募金運動。募金活動は500万県民(当時)の共感と参加を得て急速に全県にひろがりをみせた。兵庫と沖縄とは古くから深いえにしに結ばれていた。太平洋戦争の沖縄戦では多くの兵庫県出身の戦没者を出し、また、沖縄の最後の官選知事は兵庫県出身の島田叡知事である。



友愛スポーツセンターは平成20年に老朽化のため取り壊された



読谷村でのランタンフェスティバルに出展



友愛スポーツセンター跡地は現在グラウンドに



読谷村にて45周年記念交流会



兵庫に沖縄地区を迎えて交流

青年が参加したこともあり、日本に復帰した沖縄の青年達に、同じ若者として何か役に立ちたい、何かできることはないか、同窓会の中で声があり、議論の末、「沖縄に体育施設を贈ろう」となった。

そして、同窓会員を中心に、各地域は勿論、人通りの多い三宮等で募金活動がはじまった。彼らの熱心な活動で1973年(昭和48年)3月31日までに、1億9094万

余円という予想以上の大きな募金が集まった。多数の県民の温かい募金に、兵庫県としても何とかしよう、県から補助金1億5000万円が加えられ、いよいよ施設建設がはじめられた。

1975年(昭和50年)6月18日、那覇市奥武山運動公園内に「沖縄・兵庫友愛スポーツセンター」が無事竣工、沖縄県に贈呈された。当時としては画期的な冷房付き体育館であった。玄関には、両県の花「野路菊」と「デイゴ」をひとつの花としたデザインがあしらわれていた。

こうしたことから、その後も、沖縄の青年と、兵庫の青年が毎年、夏には沖縄の海で、冬には兵庫但馬の山でスキーをしながら互いを理解し、交流する友愛活動が始まり50年を経た今も続けられている。

この友愛活動を契機として、沖縄の魅力に引きつけられて沖縄に移り住む若者、また意気投合して結婚、兵庫の人となった青年達も数多くいて、兵庫・沖縄の友愛が素晴らしい成果をあげているかがよくわかる。

洋上大学同窓会のこれから

ここ3年近く同窓会活動もコロナの影響を諸に受けている。事業中止やオンラインでの会議や事業の変更も余儀なくされた。コロナ禍の中での活動テーマを「世界を結ぶ明日への航路(みち)」と新しい生活・活動スタイルで」と掲げた。「こころ」と「ななかま」を原点に同窓会でなければ出来ない活動(青少年事業・社会福祉事業・国際交流事業)を兵庫県や兵庫県

青少年本部と連動しながら各地域で展開している。これら活動を先導的に計画・実践している大家重明会長と新庄和文事務局長の長年献身的に同窓会の基盤を支える姿には頭が下がる。

同窓会は「新しいひょうごスタイル」取り入れ持続可能な活動で齋藤元彦知事が提唱する「躍動する兵庫」の実現を共に目指している。

「兵庫県青年洋上大学へ」

1971年(昭和46年)に始まった「兵庫県青年洋上大学」、時代や形は多少変わりつつも、その精神は変わることなく青年たちは自からの生きる道を求め、明日の夢を目指して世界へ船出をしている。

途中、天安門事件、阪神淡路大震災、コロナ感染症拡大などで中止のやむなきこともあったが、実に50年間、営々と続けられている。

こんな長期間続けられている事業は、どこを見ても例はなく、全国に誇れる大プロジェクトである。

それは、青年達に豊かな心を育み、自覚と責任感を醸成してもらうことを願い、きつと次代を担っていきける青年に成長することを期待しているからであろうし、そしてその成果も確認してきたからに他ならない。

まさしく代々の知事の英断と「兵庫の知恵」である。